

## 2017 上越市長選公開質問状 回答一覧

質問状発送日：2017 年 9 月 8 日      回答期限：2017 年 9 月 22 日      質問者：つなげよう脱原発の輪 上越の会

(回答者からの原文のまま。当会で要点にアンダーライン)

質問	中川幹太氏	後藤浩昌氏	村山秀幸氏
1. 停止している現状の柏崎刈羽原発の危険性をどのように認識していますか？	<p>停止している柏崎刈羽原発については、                      ・断層などの危険因子があること                      ・運営母体が信頼できない東京電力であること                      ・使用済み核燃料が保存できないほど増えていること                      ・事故が起こった際、市民の生活基盤が崩壊してしまうことなどの原因により、<u>徹底した避難計画・避難訓練や、運営母体との絶対的な信頼関係なしには、危険性が大きい</u>と考えています。</p>	<p><u>今後、再稼働され兼ねず、危険極まりない。</u></p>	<p>柏崎刈羽原子力発電所にあつては、全号機運転停止から 5 年以上が経過し、使用済み燃料が低温状態で燃料プールに保管された状態にあるものの、<u>直下型地震やテロ攻撃による被災など、原子力災害のリスクがゼロとは言えないもの</u>と考えています。</p>
2. 上越市策定の現在の避難計画で被曝は防げますか？またこの避難計画の問題点を具体的にどのように考えていますか？	<p>地震、津波、原子力災害、道路崩壊などが同時に発生する複合災害の場合、災害の専門家は計画通りに避難できることはありえないと断言していました。避難計画は計画として徹底的に充実した内容にすることはともかく、避難住民や市職員、その他関係団体が臨機応変に対応できる訓練を何度も繰り返すことが必要です。市の取り組みとしては、<u>災害対策の専門家を育成し、異動させずにプロパーとすることも必要</u>です。</p>	<p><u>被曝を防げ得ない。避難計画如何ではない。</u>再稼働には断じて反対。</p>	<p>現在の市の避難計画については、国や県の方針に応じた、被ばくを食い止めるための<u>必要最低限のもの</u>と考えています。市内全戸へガイドブックの配布などを行っていますが、<u>中々市民の意識にまで至らず</u>、また、災害の態様や柏崎市からの避難者の動きなど様々な状況の下、<u>要配慮者の避難や避難退域時検査、安定ヨウ素剤の配備を始め、今後の整理・協議が必要な課題が多いもの</u>と認識しています。</p>

<p>3. 福島原発事故をどうとらえていますか？</p>	<p><u>原発に対して国民が信頼性をなくした事件</u>です。福島で生産される食品は、全て「安全性が損なわれている」という印象を与えています。福島から避難した人たちは、故郷に帰れないばかりでなく、避難先でいじめや差別など過酷な環境に置かれています。速やかに原発を廃止し、別のエネルギーに転換できる対策を早急に準備すべきです。</p>	<p><u>国と東京電力が自然を軽視した結果。</u></p>	<p>(3,4) あわせてお答えいたします。東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故については、<u>現在、新潟県において原因の検証が行われています。</u>今年2月、福島第一原子力発電所を視察しましたが、周辺地域における惨禍と処理に係る膨大なコストを鑑みますと、稼働中及び停止中の原子力発電所については<u>将来的な廃炉に向け、国が責任をもって道筋をつけるとともに、正確な情報を提供し、国民の不安を解消しなければならないものと考えています。</u></p>
<p>4. 原発そのものについてどのように考えていますか？</p>	<p><u>人間が未来永劫責任を持ち続けることができない分野です。利用は速やかに廃止することが必要です。</u></p>	<p><u>放射能、放射線は一度流出すれば人間の手に負えず、取り返しがつかない。</u></p>	<p>同上</p>
<p>5. 柏崎刈羽原発が国の審査に合格した場合に再稼働を認めますか？</p>	<p>「1」でも課題としてあげましたが、運営母体に信頼がない中で再稼働を認めることはできません。また、周辺自治体として、それ相応の避難計画と避難訓練が必要で、<u>現時点では時期尚早と考えています。</u></p>	<p><u>認めない。阻止する。</u></p>	<p>少なくとも東京電力に対して運転停止を含む措置を要求することができる新潟県において、福島第一原子力発電所の事故の原因、健康と生活への影響、安全な避難方法が検証されるまでは、<u>再稼働の議論はできないということが県民の意思であると認識しています。</u></p>

<p>6. 国の審査に合格し、県の検証が済んだ場合に再稼働を認めますか？</p>	<p><u>「5」と同じ答えです。</u></p>	<p><u>認めない。阻止する。</u></p>	<p>県による検証の結果を受け、議論があるものと考えていますが、いずれにしても、<u>廃炉に向けた計画が前提</u>になるものと認識しています。</p>
<p>7. 再生可能エネルギーの導入について具体的政策を教えてください。</p>	<p>国全体で再生可能エネルギーを推進する体制にはなっていません。その体制を徹底することを国に求める必要があります。また、上越市としては<u>小水力発電とバイオマス利用などの先進地となるよう、導入を徹底したい</u>と考えています。</p>	<p><u>全県を挙げて進興すべき。風力、太陽光、潮力、水力、火力発電。</u></p>	<p>私は、<u>任期中に再生可能エネルギー導入計画を策定し、太陽光発電、小水力発電、バイオマス利用、雪氷冷熱利用、温度差エネルギー、クリーンエネルギー自動車の6つを、重点的に導入を推進してきており、新たに雪冷熱エネルギー活用施設の整備も行いました。今後も計画に基づく再生可能エネルギーの導入を着実に進めるとともに、地域で発電し、地域で利用する「エネルギーの地産地消」の検討や地域エネルギーを活用した新たなビジネスに取り組む事業者の支援にも取り組んでいきたい</u>と考えています。</p>

2017.10.11

つなげよう脱原発の輪 上越の会